健対協

5項目の調査研究を検討の結果、引き続き継続

平成22年度疾病構造の地域特性対策専門委員会

■ 日　時　平成22年12月７日（火）　午後１時30分～午後２時40分
■ 場　所　鳥取県健康会館　鳥取市戎町
■ 出席者　９人
岡本健対協会長、岡田委員長、能勢・藤井・吉中各委員
県健康政策課：下田副主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主任

議　事

１．平成21年度事業報告について

平成21年度の疾病構造の地域特性対策専門委員会と母子保健対策専門員会の事業報告を纏め、第24集を作成し、関係先に配布した。

疾病構造の地域特性対策は以下の５項目について調査を行った。

（１）鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査（平成13年度より開始）

鳥取県における透析医療と腎移植に関する問題点について、中国腎不全研究会との共同研究で検討。鳥取県の腹膜透析施設が少ないことにより、透析患者のうち腹膜透析の占める割合が低い。また、鳥取県では腎移植が65例実施されている。ただし、鳥取県立中央病院では腎移植を中断しており、東部の腎移植施設がない状況である。

鳥取県腎友会の協力を得て、透析患者へのアンケート調査を行った結果、約27％が就労者で、体調面の不安、長期透析により合併症への不安を抱えながら就労されている。また、22.7％が腎移植を希望している。平成22年１月には腎移植認定医３名による無料相談システムが立ち上げられた。

（２）再健術式による胃全摘術後患者の生活の質（QOL）の比較（Roux-en-Y再建法とパウチ・ダブルトラクト再建法の比較試験）（平成21年度より開始）

胃全摘術後の再建方法として、十二指腸側にパウチを作成するパウチ・ダブルトラクト再建法を新しく考案。術後２年後の栄養の客観指標を従来法のRoux-en-Y再建法（RY群）、パウチ・ダブルトラクト再建法（PDT群）で比較した。両群で有意の差は認められなかったが、PDT群で体重の戻りが良好であることが伺われた。また、すべての栄養評価項目においてPDT群がRY群を凌駕していた。

（３）非アルコール性脂肪性肝疾患の実態と診断法の開発（平成16年度より開始）

肥満や糖尿病の増加に伴い、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）が増加している。このうち炎症と線維化を伴う脂肪肝炎（NASH）は、肝硬変、肝細胞癌への進展が危惧され、注目されている。NASHの診断法は侵襲を伴う肝生検が必要であったが、それを評価出来る新しいバイオマーカー M30の有用性について検討。

肝生検を行った症例の中で、血清M30の値が単純性脂肪肝とNASHの鑑別診断能に優れていた。

平成22年度は治療によってM30がどのように変化するか引き続き検討する。

（４）鳥取県におけるがん罹患･死亡の地域特性に関する記述疫学的研究（平成21年度より開始）

2007年における鳥取県の75歳未満年齢調整がん死亡率が全国47都道府県中で第43位の高率を示したため、その背景解析を目的として、記述疫学的に検討。

性別では男性、年代別では40－50歳代、部位別では胃、肝臓、大腸の死亡率が高いことが、75歳未満年齢調整がん死亡率の高率に寄与している。

平成22年度には胃内視鏡検診の死亡率減少効果の検討を行う。

（５）鳥取県における喫煙と肺がんの関係に関する調査―喫煙と“肺年齢”の関係からみた高齢者肺がんの特性―（平成20年度より開始）

高齢者肺がんにおける喫煙と肺年齢の関係を解析。術式選択や合併症予測に使える指標となるかどうかについて検討。

高齢者の肺がんの喫煙者では、肺年齢は実年齢よりも10歳以上高くなる傾向にあり、術後肺合併症も多く発生しやすかった。平成22年度は吸入療法による周術期合併症の予防効果について検討を行う。

母子保健対策は鳥大医　小児科　神﨑教授による「早期黄疸をきたし、遺伝子解析を行ったピルビン酸キナーゼ異常症」について調査研究を行った。

以下の質問、意見があった。

（１）腎移植の年次推移報告をして頂きたい。

２．平成22年度事業中間報告について

（１）鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査

透析患者のうち新型インフルエンザの罹患率は10万人あたり鳥取県6.4人、中国５県の平均より多かった。また、ワクチン接種者も多かった。

腹膜透析施設が８施設と少ない。施設へのアンケート調査により、腎不全患者が血液浄化療法に移行する際に説明時間は平均102分であり、中国５県平均の100分と差はなかった。また、腹膜透析未実施施設の実施していない理由としては、経験がない42％、管理が難しい17％、スタッフ不足25％であった。経験がないが中国５県平均17％に比べ高かった。

改正臓器移植法が施行されたことに伴い、平井県知事より鳥取県院内５病院の院内移植コーディネーター15名の委嘱状が交付された。県内における臓器提供病院での準備状況について調査した。

（２）再健術式による胃全摘術後患者の生活の質（QOL）の比較（Roux-en-Y再建法とパウチ・ダブルトラクト再建法の比較試験）

術後３年後の栄養の客観指標を従来法のRoux-en-Y再建法（RY群）、パウチ・ダブルトラクト再建法（PDT群）で比較検討を行い、最終結果と考察は英語論文の形でInternational Journal of Surgical Oncologyへ投稿予定である。平成22年度をもってこの調査は終了。

（３）非アルコール性脂肪肝炎における血清M30の有用性

NAFLD患者の治療経過における血清M30の変化を検討。NAFLD患者の２kg以上の体重減少が達成出来た群の血清M30の値は有意に低下した。よって、治療効果の判定にも有用であった。

（４）鳥取県におけるがん罹患･死亡の地域特性に関する疫学的研究～鳥取県における地域がん登録データを活用した胃がん内視鏡検診の評価～

胃がん内視鏡検診の有効性を評価することを目的に、米子市の胃がん罹患者を対象に各種検診別の生存率の評価を行った。

平成13年から平成16年までの米子市在住の胃が

ん罹患者のうち診断時年齢が40歳から79歳を対象として、診断日以前の１年以内の検診受診状況により内視鏡・胃X線・未受診の３区分の解析を行った。

性別と診断時年齢で調整した検診内容別の死亡に対するハザード比を見ると、内視鏡に対する胃X線と未受診のハザード比は、それぞれ1.916、3.571であった。内視鏡に対する未受診は有意に高いハザード比であったが、内視鏡に対する胃X線は高いハザード比を示したが統計的に有意ではなかった。未受診者と比較する場合は、各種のバイアスが存在するため結果の解釈には慎重を要する。そこで、内視鏡と胃X線の受診者のみで比較したが、ハザード比の有意差は認められなかったが、内視鏡検診の生存率は有意に高いという結果であった。

この研究については、厚生労働省第３次対がん総合戦略研究の中でも、米子市、新潟市の内視鏡検診についての死亡率減少効果が報告されている。

（５）鳥取県における喫煙と肺がんの関係に関する調査～喫煙によるCOPD合併肺がんに対する術前tiotropium吸入療法による新しい周術期管理～

周術期管理において、tiotropium吸入療法をすることにより呼吸器合併症の予防効果があったかどうか検討した。症例数が少ないので、肺合併症の発生率が減少したとは言えないが、合併症はいずれも軽症であった。今後は症例を重ねて更に予防効果の検討を進める。

母子保健対策は、以下のとおりである。

1．出生直後より高ビリルビン血症をきたし、赤血球の酵素活性測定と遺伝子解析にて、日本人症例で初めての報告となるピルビン酸キナーゼ異常症（PKLR遺伝子異常）を見出した。
2．低出生体重児（SGA児）に伴う低身長児に、インスリン様成長因子受容体遺伝子にヘテロでミスセンス異常（Asp1105Glu）を見出した。
3．乳幼児健康診査マニュアルの改訂を開始した。
4．タンデムマス法による新生児マス・スクリーニング法の採用を提案した。

IGF系からみた低出生体重児の病因、母胎の甲状腺機能が胎児に及ぼす影響、小児のアディポサイトカインについて検討していく。

３．平成23年度事業計画（案）について

平成22年度の５項目について、平成23年度も継続して調査研究して頂くこととなった。

（１）鳥取県における透析患者の実態調査と腎移植の推進に関する疫学調査

鳥取県における血液透析および腹膜透析の現状調査を引き続き行い、末期腎不全医療の問題の検討を行う。腎友会との連携で、特に高齢透析患者について調査を行う。

腎移植認定医による腎移植に関する相談システムを広報して、積極的活用を図る。

県内脳死下臓器提供病院の院内コーディネーターと連携し、臓器移植の推進を図る。

また、腎不全予防に関する県民啓発のあり方を検討する。

（２）腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術後の胃内食物停滞防止における六君子湯の効果に関する研究

平成23年度は新たな調査項目として、腹腔鏡下幽門輪温存胃切除術は早期胃癌に対する幽門機能温存手術として鳥取大学で多く実施されている。切除後の合併症の発生防止として、六君子湯の投薬による胃内職物停滞防止の効果を検討する。

（３）非アルコール性脂肪性肝疾患における血清M30の有用性

多施設共同にてNAFLD患者に対する薬物療法の効果を、血清M30を用いて検討する。

（４）鳥取県におけるがん罹患･死亡の地域特性に関する疫学的研究～地域がん登録データを活用した県内４市の胃がん検診の評価～

平成22年度は米子市の検討を行ったが、平成23年度は県内４市の胃がん内視鏡検診の有効性を評価を行う。

（５）80歳以上高齢者肺がんにおける併発症を考慮した適切な術式選択と術後QOLの解析

鳥取大学では2000年以降の根治的肺癌手術症例434例中、80歳以上は14.7％（64例）を占めており、高齢者肺癌の増加は鳥取県の特徴でもある。tiotropium吸入療法等を組み合わせた術後の合併症予防の効果として、健康プロファイル型尺度であるSF-36を中心にしたアンケート解析を用いてQOL評価を行う。

以下の質問、意見があった。

（１）薬剤の効果を検討する場合は、複数の薬剤での比較検討を行って頂きたい。

（２）80歳以上の肺癌切除後の予後はどうなのかということも報告して頂きたい。

４．その他

研究成果について、年２回開催される鳥取県医師会医学会での発表、もしくは鳥取県医師会公開健康講座での講演を義務づける方向で検討することとなった。

母子保健調査研究の内容等について、総合部会で協議することとなった。

鳥取県健康対策協議会従事者講習会等のご案内

平成11年度以降の各がん検診精密検査医療機関の登録更新から、従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたものについてのみ登録することになりましたので、登録条件をご留意の上、ご参集のほどお願いします。

なお、平成22年度は肺がん検診、乳がん検診、大腸がん検診（注腸X線）精密検査登録医療機関の更新手続きを行います。また、肺がん医療機関検診実施（一次検診）医療機関登録の更新も行います。

関係書類は平成23年２月頃にお送り致します。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日　　時　平成23年２月12日（土）午後４時～午後６時

場　　所　鳥取県健康会館　鳥取市戎町　電話（0857）27－5566

対　　象　医師、検査技師、保健師等

内　　容

（１）講演：「胃がん内視鏡検診を巡る課題」

講師：国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院長　細川　治先生

（２）症例検討

（１）胃がん検診精密検査医療機関登録条件

１）担当医が胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去３年間に15点以上取得すること。ただし、胃がん検診従事者講習会及び症例研究会に各１回必ず出席していること